

所、姫路市役所大気局ならびに呉市役所公害対策課に対し深く感謝する。

文 献

気象庁観測部, 1974: 周防灘周辺の気象特性。
 呉測候所, 1973: 呉市の大気汚染予防実績報告書。

久保時夫, 1963: 下層大気中の逆転層と汚染について, 気象研究ノート, 14, 293-304。
 水間満郎, 1974: 京大原子炉敷地における夜間の逆転層について, 気象技術ノート, 15, 17-18。
 日本気象協会福岡本部, 1972: 下松市大気環境調査。
 日本気象協会関西本部, 1973: 下関市における立体気象調査実施結果報告書。



須田 瀧雄著

太陽黒点の予言

——解明された気候変動の謎

地人書館, 1976, B 6版, 192頁, 1, 200円

著者は舞鶴海洋気象台長を最後に気象庁を退職された方である。在職中から太陽活動と気象の関係を永年にわたって研究され、東大から授与された学位もこの方面の研究であったと記憶している。退職後も再就職の道をえらばず、研究に没頭した情熱は後輩の指針ともなる。

著者は岡田武松伝(岩波書店)にみられるように、老大な資料を克明に分析し、ひとつの流れの中にまとめる独得な才能があるように思われる。そのことが、この本についても言える。太陽活動の変化が気象にどのように作用しているのか、そのメカニズムは何かという問題は分からないと言えどもそれまでだが、著者は多くの資料を用いて明快な討論を展開している。しかも、文章が上手なので、通勤の往復に読めるぐらい分かりやすい。

この本の読みどころは第4章の「実証できた太陽活動の地上気象への影響」である。太陽活動については支持する学者、無視する学者いろいろあるが、著者は黒点を太陽からの短波放射、地磁気活動度を微粒子放射の指標

にしてそれらを組み合わせ、混乱した意見を整理した。これが著者のライフ・ワークの一大成果である。

つぎに著者はこの成果を応用し超長期予報を試みた。それがこの本の第2の読みどころであり、同時に著者の情熱がこめられている。第6章の「新しい根拠に基づく気候変動の予測」がそれで、1985年が北米大陸・北海道が低温のピーク、1990年が東日本寒冬のピーク、1995年が東日本冷夏のピークに当たっているという。著者は10数年前から散発的に不順気候時代が来ると警告していたが、こうして単行本としてまとめて世に問うことに多大の勇気が必要だったらしい。しかし、それをふみきらせたのは食糧問題が背景にある。昔から食糧が不足すると、政治が不安定になり、一般庶民は生活に苦しんで来た歴史がある。しかし、施策よろしきを得たときは安定した生活を送ることができた。事前に対策をたてることがいかに大事かが分かる。著者は現在がその時期だと声高く言いたいのであろう。著者は科学者であると同時にヒューマニストであることがわかる。

本書の目次はつぎの通りであるが、教養書としてできるだけ多くの方々が読まれることをおすすめしたい。

太陽活動も気候も変動する。恐るべき気候変動の影響。気候を変動させるもの。気候変動の因を太陽に探る。実証できた太陽活動の地上気象への影響。従来行なわれた気候予測。新しい根拠に基づく気候変動の予測。

(朝倉 正)